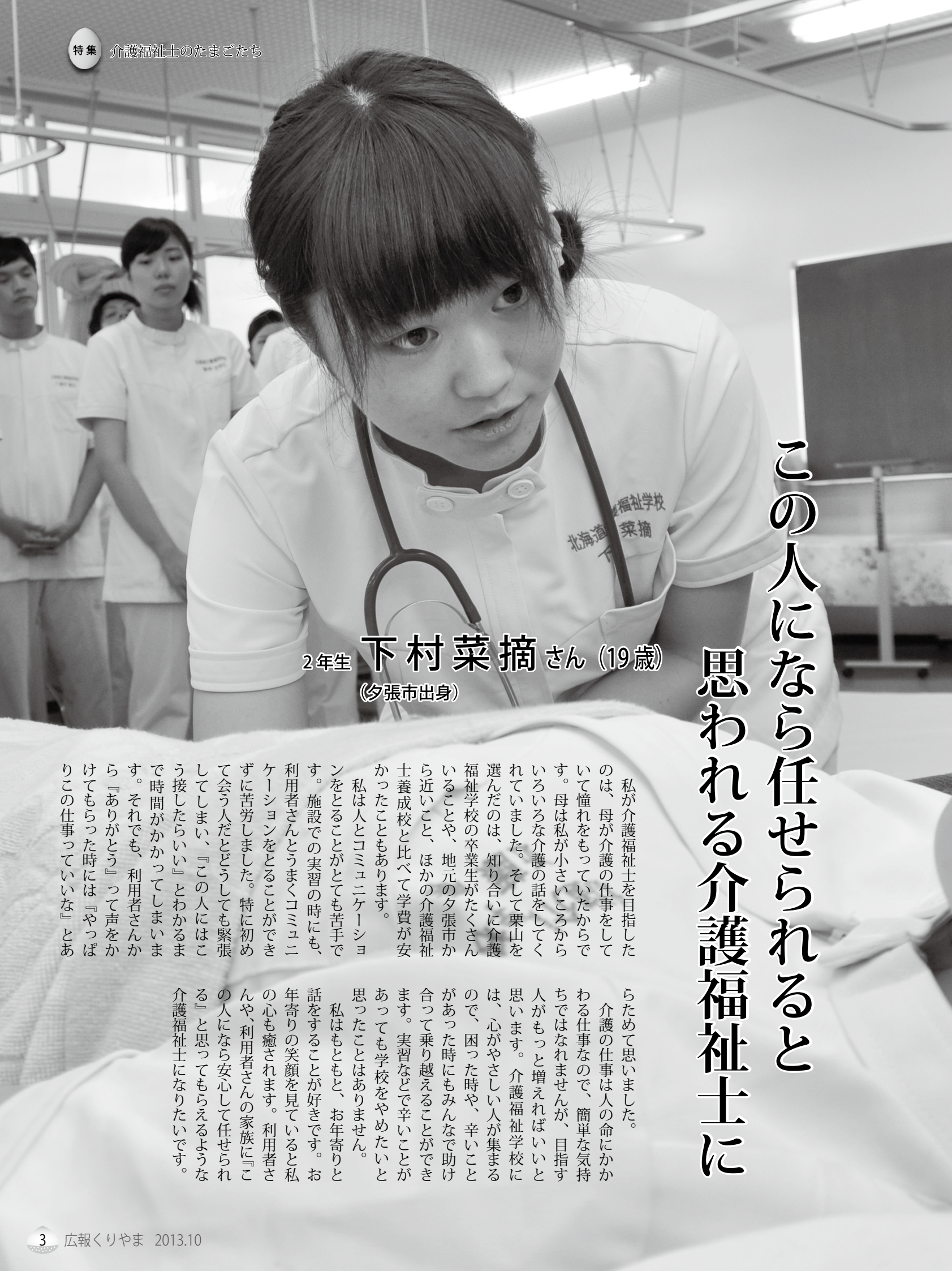




特集
 介護福祉士のたまごたち



2年生 下村菜摘さん (19歳)
(夕張市出身)

この人になら任せられると 思われる介護福祉士に

私が介護福祉士を目指したのは、母が介護の仕事をしていて憧れをもっていたからです。母は私が小さいころからいろいろな介護の話をしてくれていました。そして栗山を選んだのは、知り合いに介護福祉学校の卒業生がたくさんいることや、地元の夕張市から近いこと、ほかの介護福祉士養成校と比べて学費が安かったこともありです。

私は人とコミュニケーションをとることがとても苦手です。施設での実習の時にも、利用者さんとうまくコミュニケーションをとることができずに苦労しました。特に初めて会う人だとしても緊張してしまい、『この人にはこう接したい』とわかるまで時間がかかってしまいました。それでも、利用者さんから『ありがとう』って声をかけてもらった時には『やっばりこの仕事っていいな』とあ

らためて思いました。

介護の仕事は人の命にかかわる仕事なので、簡単な気持ちではなれませんが、目指す人がもっと増えればいいと思います。介護福祉学校には、心がやさしい人が集まるので、困った時や、辛いことがあった時にもみんなが助け合って乗り越えることができます。実習などで辛いことがあっても学校をやめたいと思ったことはありません。

私はもともと、お年寄りとお話をすることが好きです。お年寄りの笑顔を見ていると私の心も癒されます。利用者さんや、利用者さんの家族に『この人になら安心して任せられる』と思ってもらえるような介護福祉士になりたいです。

介護福祉士の

たまごたち

介護福祉士を目指して奮闘

栗山中学校から少し東に行ったところに栗山町立北海道介護福祉学校があります。介護福祉学校は、2年間で介護に必要な知識や技術を学び、国家資格『介護福祉士』の修得を目指す介護福祉士養成校です。昭和63年、国内で初めて認可された養成校のひとつとして開校し、今年で25年を迎えました。

今、日本では超高齢社会により介護を必要とする方が増え続けています。一方で介護の職に就こうという人材が不

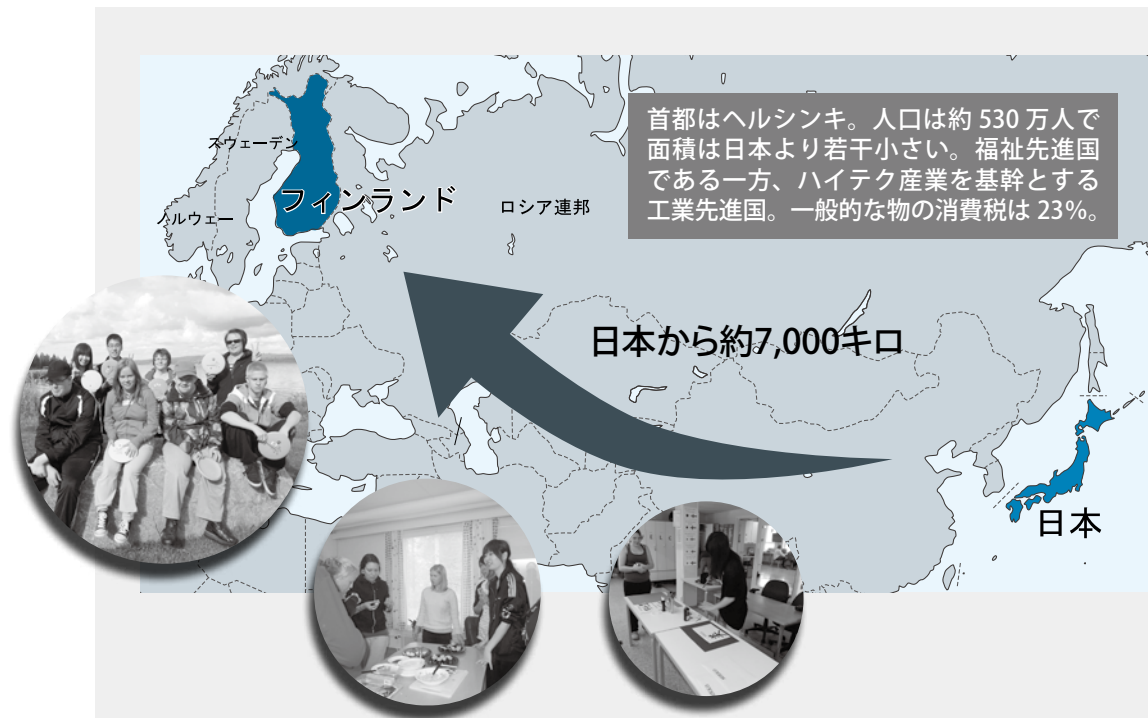
足し、深刻な社会問題になっています。そんな中、介護福祉学校はこれまで約2,000人の介護福祉士を輩出し、栗山町内はもとより近隣自治体、道内の介護福祉士不足を補う社会的な役割を果たしてきました。

介護福祉学校には介護福祉士を目指し、将来の福祉社会を支えていこうという、学生の姿があります。学生たちは、どんなきつかけや目標を持って介護福祉士を目指しているのでしょうか。

北海道介護福祉学校

道内唯一の公立の介護福祉士養成校。これまで約2,000人の介護福祉士を輩出してきた。開校以来、就職率100%を維持し、介護職不足といわれる中、着実に人材を育成している。





7000^{キロ}先の福祉 フィンランドで学んだこと

介護福祉学校では、平成9年から福祉先進国フィンランドへ、留学生を毎年送り出しています。今年も8月26日から15日間にわたり3人の学生を派遣しました。研修を終えて、たくましくなって帰国した学生たちに研修の成果を聞きました。

フィンランドに行って感じたことは？

池田さん・自然が多くてとてもいい国でした。福祉がとてもしっかりと、初めてみるような介護器具がたくさんありました。利用者さんだけでなく、介護する人にとって負担がかからない環境が整っていたので見習わなければならぬと感じました。

村上さん・衛生にとても気を使っていると感じました。利用者さんの顔を拭くのでさえ、紙でできた使い捨ての手



2年生 池田菜摘さん
(砂川市出身：町内に就職希望)

フィンランドで学んだ経験をこれからどう生かすか？

水上さん・コミュニケーションのとり方を見習わなければいけないと思いました。しかし、利用者さんとあまり会話



2年生 水上裕太郎さん
(栗山町出身)

袋をはめていました。ただ、利用者さんは肌が弱っている方が多いので、紙の手袋だと肌を傷つけてしまわないのかと疑問が残りました。

水上さん・利用者さんと気軽に肩を組んだり、抱き合ったりして肌でコミュニケーションをとるのがすごいと感じました。



2年生 村上理沙さん
(栗山町出身)

池田さん・日本の介護は利用者さんを主体に考えていますが、フィンランドでは介護する側を主体に考えていると感じました。フィンランドの先進的といわれる介護福祉を経験しましたが、日本の介護福祉も良いのだと気付かされました。働くようになってからも利用者さんを一番に考える気持ちを大切にしていきたいです。

をしていなかったのもっと会話をすべきだと感じました。この経験を生かして、利用者さんとたくさん会話し、信頼関係を築けるような介護福祉士になりたいです。

村上さん・日本の介護の方が利用者さんにとっていいと感じることがたくさんありました。目上の方や利用者さんに対する思いやりの気持ちをもらった介護福祉士になりたいです。

感謝の気持ちを持って

私は介護福祉学校の学生になる前は札幌の鮮魚店に勤めていました。早朝に卸売市場で魚を仕入れ、さばいてからホテルや居酒屋などに納める仕事です。しかし、勤めていた鮮魚店は、不景気のため業務を縮小することになり、リストラされてしまいました。

私はリストラされる一年ほど前に、同い年の同僚を病気で亡くした経験があります。その同僚が入院していた病院

は職場に近かったこともあり、毎日のようにお見舞に行きました。同僚は私に弱い姿を見せまいと元気を装っていたことが心に残っています。そうしているうちに人々をみる仕事に就きたいと思うようになりました。はじめはボランティアでもしようと考えましたが、リストラされたのを機に、2年間学んで介護福祉士を目指すことに決めました。介護の仕事を目指すきっかけは何でもいいと思いますし、私のように社会人経験があれば、それを生かすこともできる仕事だと思っています。

北海道介護福祉学校入試

10月1日より願書の受付をしています。

▶学科 介護福祉学科 ▶定員 80人 ▶修業年限 2年(昼間)

▶修得資格 介護福祉士(国家資格)、レクリエーションインストラクター

学費など 1年次92万円、2年次83万円 合計175万円

※奨学制度、特待生制度もあり、学生生活を支えます。

【問い合わせ】北海道介護福祉学校 ☎ 72-6060

種 類	願書受付期間	試験日
推薦入試	10月1日(火) ～18日(金)	10月26日(土)
一般入試	10月15日(火) ～11月8日(金)	11月16日(土)
二次入試	11月18日(月) ～12月6日(金)	12月14日(土)



北海道介護福祉学校
初山清仁 校長

確かな知識、 技術の習得を

**年齢・性別に関係なく
社会に必要とされる**

本校の学生は、高校を卒業してすぐに進学してくる人が約7割、そのほかの人が約3割です。介護と関係ない仕事についていた人や、資格を持たずに介護職についていた人、厳しい社会の中で職を失い次の道を求めて来た人などさまざまです。

日本は超高齢社会に入り、介護を必要とする方が増え続けています。しかし、介護職に就く人が不足しています。介護職に対し、『仕事がつきつい』『きつい割には給料が安い』などという社会の認識があるからだと思っています。ですが、実際は介護福祉士の給料は、少しずつ上がってきてい

ます。

また、介護職は離職する割合が高いといわれています。しかし本校の卒業生は、介護する上で必要な『確かな知識・技術』を習得しているため、介護の仕事に辞めずに続けている人がほとんどです。

介護福祉士は介護に関心を持った人であれば、年齢や性別などとは関係なく仕事に就くことができます。介護福祉士は社会的にも『今』必要とされる職業です。栗山町の皆さんの理解を得ながら、多くの人たちに、ぜひこの学校で学んでほしいと願っています。



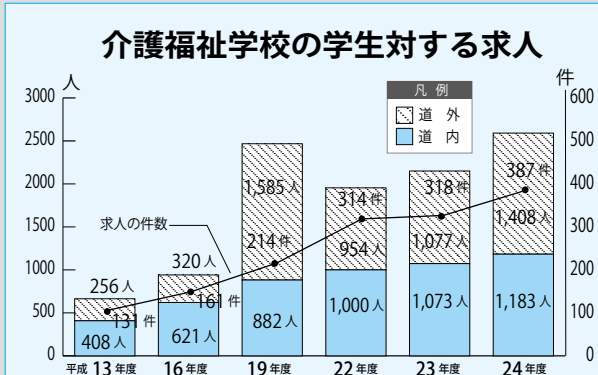
1日体験入学で介護に触れて
もらおうという取り組み

取材を終えて

厚生労働省は、団塊の世代と呼ばれる方たちが後期高齢者になるあと10年ほどで、介護職が現状より100万人不足すると見込んでいます。一方で道内22力所ある介護福祉士養成校の内1校は、学生が集まらず募集を停止する事態になっているそうです。

栗山町だけを見ても、この数年でたくさん施設が増えました。介護にかかわる人材が今後さらに必要になっていくことがわかります。こういった面からも、介護福祉学校が介護の人材を輩出していることは栗山町はもとより社会的に大きな役割を果たしているといえます。

取材でたくさんの方々に話を聞きました。学生たちは厳しいといわれる介護の現場に対してしっかりと希望を持っています。いつしか卒業して現場に出ると希望が、やりがいへと変わるのでしよう。



求人数は10年前と比べ約3倍に跳ね上がっている。道内はもとより道外からも求人が多い。全国的に介護福祉士が不足していることが分かる。今後も高齢社会による影響で介護福祉士の需要はさらに高まると見込まれている。

※1 後期高齢者：高齢者のうち75歳以上の方

**基本をしっかりと
ぶれない介護福祉士に**

高齢社会の影響で福祉施設は増え続けて、どこの地域でも介護福祉士が不足しています。私が勤める施設では、介護福祉士を求めて、道内各地の福祉施設が集まる就職相談会に参加しました。そこでは、働く場所を求めた介護福祉士が数百人規模で集まりましたが、札幌の施設ばかりに人気が集まり、私たちのブースには全く人が来てくれませんでした。

それでも、栗山町をはじめ、近隣の自治体の施設には、介護福祉学校の卒業生が多く就職するため介護福祉士を確保しやすい環境です。介護福祉学校は近隣の介護福祉に大きく貢献しているといえるでしょう。

介護の仕事は大変なのは間違いないことですが、給与の面などが改善されてきていることも確かです。

私たち一期生は、利用者さんから「あんたこつち来い」と呼ばれる人にならなさいと教えられてきました。これは、「相談にのってほしい」、「手伝ってもらいたい」と思われる人にならなさいという教えです。後輩たちには、そういった基本をしっかりと身につけて、ぶれない介護福祉士になってもらいたいと願っています。



第1期卒業生
片岡 清さん (57歳)
(くりのさと特別養護老人ホーム)

卒業生から後輩へ

介護福祉士になって よかった

介護福祉学校を卒業して働くようになってから2年目になりました。実際に働き始めると、学校での授業や実習との違いもあって、はじめのうちはとても苦労しました。私が勤めている施設には学校の先輩が多く、学校の話題を通して職員間のコミュニケーションをとることができまます。辛いことがあっても相談に乗ってくれたり面倒を見てくれたりするのでとても心強いです。

介護福祉学校での2年間は短い期間ですが知識や技術が身につくことは確かです。

学校で学んだことを、入居者さんのために『どうすれば生かせる』『ここに生かせる』などと考えることもとても楽しいです。

仕事は一人で任せられることもあり大変な面もありますが、入居者さんから『ありがとう』と声をかけてもらったり、『笑顔』で話を聞いてもらえたりすると、とてもうれしいです。

介護福祉士の仕事は、やって後悔しない仕事ですし、やりがいがあり魅力のある仕事です。たくさんの方に目指してもらいたいです。

私は介護福祉士になってよかったと思います。



第23期卒業生
工藤苑愛さん (22歳)
(特別養護老人ホーム 清光園：夕張市)